

はじめに

本県は、琵琶湖の恵みを受けた豊かな自然環境、古い歴史と交通の要衝とした地の利を活かし発展してきました。畜産業においても、歴史と伝統を誇る「近江牛」は、日本三大和牛のひとつにも上げられるなど、全国的にも高い知名度と評価を受けており、県を代表する滋賀ブランドのひとつとなっています。

牛乳、肉、卵、蜂蜜などの畜産物は、私たちの食生活を豊かにし、健康に生活することの幸せを与えてくれるとともに、命をいただく家畜と身近に親しむことにより、食と命を学ぶことができます。また、家畜の排せつ物は堆肥として土づくりや農作物の生産に役立つなど、地域における資源循環による耕畜連携に大きな役割を果たしています。

さて、近年の畜産をとりまく情勢は、新型コロナウイルス感染症の拡大によるインバウンドや外食需要の減少、さらにはウクライナ情勢や円安の進展等による国際的な物流停滞および経済情勢から、飼料価格等の高騰による生産コストの増加など、先の見通せない厳しい経営環境にあります。

また、家畜防疫におきましても、豚熱やアフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病対策など、喫緊の課題も顕在化しており、本県におきましても、これら疾病の発生予防とまん延防止のため、生産農場における飼養衛生管理基準の遵守がきわめて重要となっているところです。

さらには地球環境を意識した温暖化ガスの排出削減やアニマルウエルフェアへの取り組みなど、国際的かつ社会的意義に合致した対応が求められるなど、大きな転換期に差しかかっています。

このような混沌とした状況の中ですが、県としましては、生産者をはじめ関係者の皆さまとともに、先人が築いてこられた伝統ある滋賀の畜産業を守り、海外を含む多様な消費者ニーズに応える畜産物づくりを推進し、地域に根ざした持続的で安全安心な畜産物の安定生産を将来につなげていきたいと考えております。本冊子が本県畜産に対するご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

令和4年7月

滋賀県農政水産部畜産課長

青木 義和